

安全教育



第47号

令和8年
2月25日発行
発行責任者
横田 竜一

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831
メールアドレス：info@anshinkai.or.jp ホームページ：https://anshinkai.or.jp/

一人はみんなのために、みんなは一人のために

設立時から変わらぬ思い

昭和52年、横浜市立学校に在籍する児童・生徒の健康安全に資するための「横浜市PTA親子安全互助会」が発足しました。その後、小学校・中学校・特別支援学校・高等学校が集い、法人化を目指し、組織の見直しや事業の在り方を検討しながら、昭和62年「財団法人 横浜市安全教育振興会」として新たなスタートをきりました。そして、保険業法の改正、PTA・青少年教育団体共済法の成立を経て、平成26年、現在の「一般財団法人 横浜市安全教育振興会（以下安振会）」となりました。

発足から半世紀になろうとしています。この間、一貫して「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を合言葉に、社会情勢の推移、教育環境の変化に応じ、事業内容を見直し、対応しながら、横浜市の児童・生徒の家庭や学校での安全・安心を守り、それを見守る保護者、そして学校の応援団として進んできました。

特色ある安全普及啓発事業

安振会の特色ある事業として安全普及活動事業があり、その一つが、保護者、学校の先生方を対象にした「救急救命法教室」「防災安全教室」です。以下は本年度、それらの教室に参加した方の感想です。

「初めて講習を受けました。自分でできなくても誰かを呼ぶ、助けを求めることも大切だと気づきました。AEDの使い方、心臓マッサージのやり方、子ども、赤ちゃんの場合の方法も学べてよかったです。」「本日は研修に参加させて頂き、ありがとうございました。〈人道という気持ち〉〈みんなである〉ことの大切さを教えてもらいました。」



「今日の防災教室を通して、地震と火災の恐ろしさを改めて感じ、事前に対策や防災の知識を増やすことで、防げるものがたくさんあることに気づきました。」

理事長 横田 竜一



「本日は参加させていただき、ありがとうございました。防災に対する意識があがりました。自分を守る、みんなを守る、みんなで助かる。優しくなって助け合う必要性を感じました。」

予想できなかった高温、風水害、いつ起こるかもしれない地震や津波、大規模な火災、山火事等々、いつ、どこで大きな災害に直面するかもしれない可能性が日々の生活の中で高まっています。それへの備えとともに、互助の精神、自助共助の考え方の重要性も感じていただく機会となっているようです。

多くの児童・生徒が参加する助成事業

安振会では、単位PTAへの助成をはじめ、児童・生徒が参加する事業への助成も行っています。その一端を紹介します。

山下公園で絵を描く「ファミリー写生大会」、横浜の味で世界中の人に幸せを届けようをテーマにした「おべんとうコンクール」、パラスポーツを体験する「オリパラスポーツフェスティバル」、個別支援級の児童・生徒が宿泊して楽しむ「野島クリスマスキャンプ」、日頃の練習の成果を発表する「マーチングバンド交流会」などなど、今年も多くの笑顔と感動を生み出した事業を支えることができたと思います。（巻末8ページ参照）

窓口支払いが無くても受け取れる見舞金

一昨年より、小児医療費助成制度が中学3年生まで拡充されました。窓口での支払いがないと安振会に申請をすることができないと思っていらっしゃる保護者の方がいらっしゃるようですが、そんなことはありません。安振会の給付の条件を満たしていれば、申請し、見舞金を受け取ることができます。また、放課後のスポーツクラブやキッズクラブ、学童保育や放課後デイサービス等での活動中に起こったケガに対しても申請の対象となりますので、迷われた時は、遠慮なく安振会の事務局までお問合せください。

安振会の諸事業にご理解をいただき、多くの皆様にご加入いただきますよう、お願い申し上げます。

〈調査研究委託事業〉

横浜市立本町小学校

連携・協働を組織的に行う、 今日的な健康教育、安全教育

1. はじめに

学校経営を進めていくうえで、現状の多角的な把握、組織的な解決は大きな課題です。急速なICT活用の推進に伴い、心と体の健康、誰もが安心して豊かに過ごせる学校づくりを目指しました。

2. 子どものサイン見逃さず、専門家・関係機関・地域と連携した健康教育

学校・家庭・学校医・学校薬剤師や関係機関が連携し、それぞれの強みを生かした健康教育に力を入れる学校は多くあります。その中で、児童支援専任教諭とともに養護教諭も心や体の健康に課題を抱える子どもへの支援にコーディネート力を発揮することが期待されています。

→登校しぶりや集団に馴染めない子どもなどの小さなサインを見逃さず、すぐに校内で共有することが早い対策につながります。

また子どもの健康づくりのため、本校では、学校保健委員会などの組織活動を重視した運営体制を築いています。学校保健委員会では、毎年目標に沿って実施し、体験的な行事の手配も行います。

→地域や関係機関の協力があって継続できます。連絡調整を行うことで、様々な専門家とつながることが実感できます。

3. 学校医と連携した健康の課題解決

専門家の助言を受けた上で家庭とも共有し、共に課題解決と健康の質の向上を目指します。特に学校医との連携は日頃から密に行い、子どもと保護者を対象にした健康相談を複数回実施します。

養護教諭は、事前に対象希望者を決定し、学校医と打合せし、相談後、校内では担任と連携した事後支援をします。健康相談のねらいは全教職員と共有し、子どもと保護者への情報提供も、面談の機会を活用して積極的に行い、体の成長や健康上の不安を抱える子どもと保護者が利用します。

→校外の連携は児童支援の鍵です。今後は幼稚園・保育園から中学校までの縦の連携をさらに意識した健康づくりに発展させます。

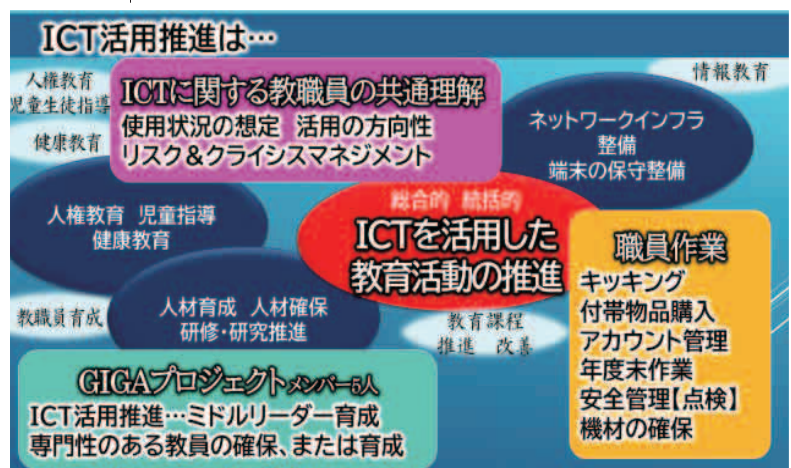
4. ICTの効果的な活用〈全児童参加の学校保健委員会でリアルタイム集計など〉

年2回の学校保健委員会を全校児童の参加で行っています。テーマについての提案は高学年児童がタブレット端末を活用した提示を行います。低学年児童にもわかりやすいように画像やイラストで視覚的な構成を心がけます。放送室では、学校医がその発表を受けて助言をします。

その後、教室にいる子どもたちは各自タブレット端末を活用し、発信されたアンケートにリアルタイムで回答したり、各学級での取り組みについて意見を学級で集約したことを「回答BOX」に送信したりします。学校保健委員会のまとめは、全学級からの意見や提案を発表。まさに全児童参加型の学校保健委員会を行っています。

5. 直面するSNS利用の危険への対応

スマートフォン等の端末の普及が進み、それに伴い好ましくない深刻な事案も発生しています。その多くは、学校現場として繊細な対応が必要で、子どもや社会の心の闇さえを感じさせるものです。その認識を子どもたちだけではなく、多くの立場の人へ提起していく機会も必要です。多くの人へ利便性を考えて作られたツールであるものが、スマートフォン等の端末は、世代を超え、使い方によっては他人を傷つけ、時には命を奪ってしまうのです。本校でも、このことを大きくとらえ、専門家（警察含む）による研修を実施しました。



〈調査研究委託事業〉

2025年度 横浜市PTA連絡協議会研修会

大人のためのいのちの話

～子どもたちの心とカラダを守る正しい知識～

講師：高野しのぶ(助産師として20年以上出産に立ち会ってきた経験をもとに、子どもたちに命の大切さや自分の身を守る術を伝える出張授業を実施。2024年4月、横浜から日本の性教育を変える「en」を設立。)



私たち保護者は、「自分の子どもに自信をもって性教育をしていると言えますか?」という質問に、自信をもって「はい!」と答えられる人はどれだけいるのでしょうか。こんな疑問から、今年度の市P連研修会は「性教育についての講演」を高野しのぶさんをお願いしました。

高野しのぶさんは、助産師として働かれているときに中学生の望まぬ出産に立ち会ったそうです。その少女は出産することを嫌がり、泣き叫びながら出産をし、高野さんは生まれたばかりの赤ちゃんを少女に見えないように隠しながら別室に行ったそうです。

なぜこんなことが起きたのか、それは少女や周りの大人の性教育への理解の乏しさ、信頼関係の希薄さからきているのではないのでしょうか?この辛い経験から、性教育の大切を広めなければならないと考え、正しい性教育といのちの大切さを広める活動を始めたそうです。そして、助産師の傍ら講演会を重ね、ついに『en』を設立しました。今でも現役の助産師として働きながら、正しい性教育を教えるため、学校などで講師として講演をされています。

今回の研修会では、参加申し込み時に講演で聞きたいことを事前アンケートで集め、高野さんにはそれをもとに当日の講演内容を考えていただきました。かなり多くの事前アンケートが集まり、皆様の関心の高さが分かりました。中でも多かった意見が、「どのように自分の子どもに性教育をしたらいいのか分からない」というものでした。これは、日本においては性教育が「タブー視」されてきたところが大きいのではないのでしょうか。

当日集まった350名ほどの参加者は、高野さんの飽きさせない軽快なトークと講演内容の濃さにどんどん引き込まれていきました。海外に比べ日

本の性教育が遅れていること、包括的性教育の大切さ、避妊具の使い方や子どもに言葉で伝えづらいときにおすすめの絵本や書籍の紹介など、子を持つ親にとってはとても有意義な内容となりました。また、実際に高野さんが相談を受けた性問題のことや、今後の子ども達への性教育のあるべき姿についても詳しく教えてくださいました。講演は約一時間半という内容でしたが、あっという間に時間が過ぎ、会場内は満ち足りた雰囲気です。事後アンケートの感想も、ほとんどの方が「良かった」「ぜひ当校でも講演をして欲しい」「もっと色々な話を聞きたかった」など、嬉しい感想が寄せられました。

日本では性教育についてタブー視する傾向や、曖昧な教え方をしている部分が多々あります。性教育として教えるべきことを教えることはとても大切なことなのに、子ども達に誤った知識を与えたり、曖昧なまま、そのままにしてしまったりしていることが大変多いように思います。親として我が子を守るためにも、伝えるべきことはきちんと伝えられるようにすべきなのではないでしょうか。

今回の講演会を聞いた方々が、性教育の大切をより意識していただければ幸いです。



(横浜市PTA連絡協議会 会計 佐藤智美)

第39回「健康と安全」ポスター展

- ◆ **展示会場**：横浜市庁舎展示スペースB / 安振会ホームページ上
- ◆ **展示期間**：令和7年12月17日（水）～
（横浜市庁舎展示スペースB）令和7年12月22日（月）まで
（安振会ホームページ）令和8年1月16日（金）まで
- ◆ **応募点数**：305点 ◆ **受賞作品**：特別賞14点 / 入選12点 / 佳作12点
- ◆ **審査委員**：横浜市教育委員会 学校経営支援課指導主事 日比野卓也 先生
横浜市小学校図画工作教育研究会会長 竹下 護 先生（横浜市立上大岡小学校長）
横浜市立中学校教育研究会美術科部会長 中 沢 務 先生（横浜市立南高等学校附属中学校校長代理）

特別受賞作品



横浜市長賞



あつい日のやくそく
公田小学校2年 茂泉 雄大



横浜市長賞



止めよう地球温暖化
藤の木中学校2年 大杉 美夕



横浜市会賞



「わたっちゃんえ」がもうアウト!!
戸部小学校4年 吉永 歩生



横浜市会賞



階段とエスカレーター
岡村中学校3年 坂口 凜



横浜市教育委員会賞



そのスマホ、今見ないとダメですか?
若葉台小学校6年 萩原 咲



横浜市教育委員会賞



落とした先は
笹下中学校3年 金井 愛紗



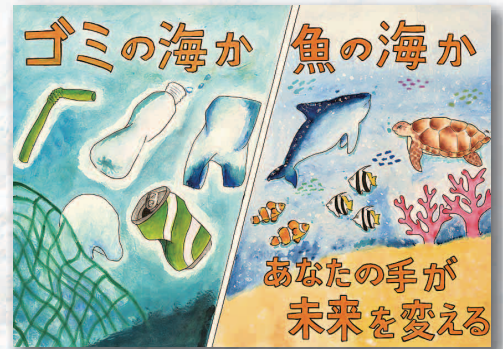
一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



ながらスマホに注意
中田小学校3年 高橋 果純



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



ゴミの海か魚の海か あなたの手が未来を変える
笹下中学校2年 関戸 友恵佳



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



つながるしあわせ
戸部小学校6年 笠嶋 みむ



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



家族でできること
岡村中学校1年 宮澤 瞳子



神奈川新聞社賞



守ろう!
戸部小学校5年 都築 茉莉



神奈川新聞社賞



ゴミと魚どっちを残す?
本郷中学校3年 杉本 紘基



審査員特別賞



好き嫌いをなく食べよう
間門小学校1年 高橋 啓斗



審査員特別賞



きれいな海を守ろう
岡村中学校1年 島田 莉子

令和7年度 加入状況

校種	賛助会員数	世帯数
小学校	319	115,330
中学校	128	61,226
高等学校	5	4,188
特別支援学校	12	1,285
総計	464	182,029

(小学校には、横浜国大附属横浜小が含まれる) 令和8年1月現在

令和7年度 評議員名簿

氏名	備考
吉備 カヨ	学識経験者(横浜市スポーツ協会)
大槻 繁美	学識経験者((公財)よこはまユース)
松本 豊	学識経験者(横浜市子ども会連絡協議会)
荒木 高司	学識経験者(神奈川県立高等学校安振会)
古瀬 謙一	横浜市教育委員会代表(総務課長)
市村美穂子	横浜市立中学校長会(総務)
松林美津子	横浜市PTA連絡協議会(書記)
宇積 悠	横浜市PTA連絡協議会(会計)

令和7年度理事・監事・審査委員名簿

役職名	氏名	備考	
理事長	横田 竜一	学識経験者	○
副理事長	豊田 則夫	学識経験者	○
副理事長	竹本 靖代	学識経験者	○
専務理事	小宮 寛之	横浜市安全教育振興会 事務局長	○
常務理事	斎藤 博栄	学識経験者	○
理事	鈴木 秀高	学識経験者	
理事	樋口真砂子	学識経験者	
理事	菅野 陽子	学識経験者	
理事	東 隆幸	学識経験者	
理事	倉根 美帆	学識経験者	
理事	田川 斉史	横浜市立小学校長会(副会長)	○
理事	熊野 一隆	横浜市立中学校長会(副会長)	○
理事	菊本 純	横浜市立特別支援学校長会(会長)	
理事	松本 雅威	横浜市PTA連絡協議会(会長)	○
理事	高杉 陽子	横浜市PTA連絡協議会(副会長)	○
理事	中屋敷 慧	横浜市PTA連絡協議会(書記)	

○印は審査委員兼務

監事	藤崎 健児	横浜市立小学校長会(副会長)
監事	玉川恵美子	横浜市PTA連絡協議会(副会長)

審査委員	紺野 勉	横浜市医師会推薦
審査委員	豊福 深奈	横浜市医師会推薦
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦

令和7年度 上期 供花料等給付一覧表

(令和7年4月1日～令和7年9月22日) (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額
(1)児童生徒供花料	児童	3	90,000
	生徒	2	60,000
	小学校	19	570,000
	中学校	14	420,000
(2)保護者供花料	高校・特別支援	4	120,000
	(3)教職員供花料	0	0
(4)証明書代等		18	33,750
合計		60	1,293,750
費目		件数	金額
手数料等	(1)振込手数料	54	21,890
	(2)その他手数料	1	110
合計		55	22,000
支払総額			1,315,750

令和7年度 上期 共済見舞金等給付一覧表

(令和7年4月1日～令和7年9月22日) (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額	
1 幼児児童生徒に対する見舞金等	死亡弔慰金	幼児・児童	0	0
	①学校管理下外の事故死	生徒	1	500,000
	死亡弔慰金	幼児・児童	0	0
	②学校管理下外の交通事故死	生徒	0	0
	死亡弔慰金	幼児・児童	1	100,000
	③登下校中の事故死(交通事故死を含む)	生徒	0	0
	障害見舞金(件数は負傷見舞金を含む)	幼児・児童	(0)	0
	負傷見舞金(部活動中の傷害を除く)	幼児・児童	720	7,752,000
		生徒	61	774,000
	交通事故見舞金	幼児・児童	11	36,000
	生徒	8	24,000	
小計		802	9,236,000	
2 会員に対する見舞金等	死亡弔慰金		0	0
	①PTA及び学校が主催又は共催する活動中の傷害による死亡		0	0
	死亡弔慰金		0	0
	②PTA活動への往復途次の交通事故死		0	0
	死亡弔慰金		0	0
	③PTA活動中の突然死		0	0
	障害見舞金(件数は負傷見舞金を含む)		(0)	0
負傷見舞金		3	62,200	
交通事故見舞金		0	0	
小計		3	62,200	
3 特別死亡見舞金等 等に対する見舞金	特別死亡弔慰金		0	0
	特別負傷見舞金		0	0
	特別交通事故見舞金		0	0
	小計		0	0
合計		805	9,298,200	
証明書代		742	1,465,604	
給付総額		805	10,763,804	
費目		件数	金額	
手数料等	(1)振込手数料	609	201,520	
	(2)その他手数料	1	550	
合計		610	202,070	
支払総額			10,965,874	

令和7年度 上期 学校管理下見舞金給付一覧表

(令和7年4月1日～令和7年9月8日) (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額	
1 生徒に対する見舞金	負傷見舞金	中学校	43	985,325
		高等学校	21	361,817
		特別支援学校	0	0
小計		64	1,347,142	
費目		件数	金額	
手数料等	(1)振込手数料	48	16,060	
	(2)その他手数料	0	0	
合計		48	16,060	
支払総額			1,363,202	

安全教育推進団体に対する助成事業

令和8年1月末現在

申請のあった単位PTAに対する助成 1校2万円(上限)195校	3,877,132
区・部会PTA講演会研修会等助成	700,000
横浜市PTA連絡協議会事業助成	1,500,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」	150,000
横浜市立中学校長会指導部・研修部	150,000
横浜市立特別支援学校長会「専門研究事業」	150,000
横浜の子どもが作る弁当コンクール	150,000
第3回横浜市小学校マーチングバンド交流会	150,000
第6回オリ・パラスポーツフェスティバル	150,000
2025野島クリスマスキャンプ	100,000
ピンクシャツデー 2026in神奈川	75,000
第21回学校給食展示会	50,000
ポッチャ体験学習支援事業	50,000
第42回横浜港カッターレース	50,000
よこはま学校食育財団「食育推進事業ファミリー料理教室」	35,000

令和7年度 区部会助成事業

区名	開催日	事業名	会場
南	1月31日	映画上映「みんなの学校」 講演会「みんなの学校はだれがつくる？」 講師 木村 泰子	中村小学校
港南	11月1日	こうなん子どもゆめワールド2025(ブース出店)	港南ふれあい公園
保土ヶ谷	12月11日	講演会「親も子どもも笑顔になれる暮らしの整え方」 講師 ただ あけみ	保土ヶ谷公会堂
栄	12月11日	講演会「壊されゆく子どもたち～夜回り先生 いのちの授業～」 講師 水谷 修	栄公会堂
泉	11月8日	講演会「校長先生に聞いてみたい進路のこと」 講師 野口 弘之 飯島 敏明 松田 哲治 前田 総一郎	泉公会堂
高校	5月23日	夏季講演会「家庭で伝えていく命の話～世界の性教育スタンダード 「包括的性教育」とは?～」 講師 高野 しのぶ	南高等学校
	11月28日	秋季研修会「小さな野心を育む ～子どもの挑戦を支える家族とチームの力～」 講師 安藤 正道	横浜サイエンスフロンティア 高等学校
特別支援	1月23日	研修会「意志決定支援」 講師 水島 俊彦	若葉台特別支援学校 オンライン

令和7年度 修学奨励金の給付

(令和7年12月末現在)

小学校	77人	30,000	2,310,000
中学校	127人	20,000	2,540,000
高等学校	10人	60,000	600,000
特別支援学校	24人	20,000	480,000
計	238人		5,930,000

安振会 年間事業

安全教室の開催

救急救命法教室

日本赤十字社指導員による
AEDを用いた応急手当等



「健康と安全」ポスター展の開催

横浜市庁舎にて展示、
表彰式を行いました。



防災安全教室

横浜市民防災センターにて、センター職員による講話や減災トレーニング・地震シミュレーター・災害シアター等の体験ツアー



団体助成事業

ファミリー写生大会



2025野島クリスマスキャンプ



第6回 オリ・パラスポーツフェスティバル



横浜の子どもが作る弁当コンクール

